GRBAS尺度

A｜5つの声質を、それぞれ0〜3で評定

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

実施手順

1 持続母音・短文・会話など、評価する発話サンプルを決める。録音・再生条件、評価者、聴取回数をそろえる。

2 下記の5要素を別々に聴き、0＝異常なし、1＝軽度、2＝中等度、3＝高度として評定する。

3 迷った音声は評価者間で根拠を照合する。Gは他4要素の合計・平均ではない。課題別の評点を合算しない。

評価・記録

記号・要素	聴こえの着眼点	0〜3
G：総合的な嗄声度	声全体として、どの程度異常か	____
R：粗糙性	ざらつき・がらがらした声	____
B：気息性	息が漏れるような声	____
A：無力性	弱々しく力の乏しい声	____
S：努力性	絞り出すような、力んだ声	____

使用課題：_____ 録音ID：_____ 聴取回数：____
評定できない項目は「評価不可」と理由を記録する。合計点や一律の診断用カットオフは設けない。

実施条件・症状／標準手順から変更したこと

出典・版の確認

日本音声言語医学会誌（2024）：GRBAS評定・評価者間の統一 ↗

音声障害診療ガイドライン2018 ↗

測定手順・評価要素を出典に基づき独自に整理した記録用紙です。メーカー・学会の公式様式ではありません。

GRBAS尺度

B｜追加の臨床記録 ― 評価本体の得点には加えません。

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

01 結果と生活場面をつなぐ

声質と、本人が話しにくい場面を分けて記録します。聴覚印象だけで声帯病変を診断しません。

本人が困っている具体的な場面／本人・家族の言葉

検査で観察した事実／生活で確かめること

02 支援を一つ試す

記入例（架空）：会話でB2、S1。電話で声が届きにくい。雑音と距離を調整し、声質と聞き返しの変化を確認する。

目標と、試す支援・環境・介助条件

実施日・場面	本人の行動・結果	必要な援助・負担

03 再評価

前回：_____ 今回：_____ 条件の違い：_____

次回確認すること・担当者・予定日

追加観察はSTROKE LAB独自欄です。検査の得点と、生活で実際にできたことを分けて共有します。